

MATSUURA

vol.10 「まつらとともた。」
2017 March 31

松浦、宝さがしの旅。



meets!
まつら

その旅、これからが本番。

制作：松浦市福岡事務所
福岡市中央区大名2-8-18 天神パークビル4階
☎092-406-2180
matsuura.f@city.matsuura.lg.jp
<http://meetsmatsura.wixsite.com/nicemeets>

まつらとともに。

松浦の宝、

3人の未来予言。

松浦市を内側から捉える目、外から見つめる目。
希望に満ちる松浦の明日を思う時、
その両方の目が確かな道しるべとなるはずだ。
そこでこのまちに縁の深い3人に
それぞれの視野の先に見えるものを問うてみた。

「福岡ビジネス協議会」事務局

吉田 泰生 さん

Yasuo
Yoshida



松浦らしさを映す 「道の駅」の魅力。



福岡市での松浦プロモーションを
多層に展開するため、松浦市福岡
事務所が「福岡ビジネス協議会（略
称・FBK）」に入会したのが20
11年4月。この時、吉田さんとの
出会いが生まれた。以後、FBK恒
例「会員企業見学会」の訪問先に松
浦市が選ばれた際、吉田さんは、鷹
島での元寇引揚文化財の見学をは
じめ、トラフグ・マガロの海上養殖の
見学等に参加している。

「私の趣味は全国の『道の駅』を見
て回ること。約7年半をかけて全国

を制覇したのが数年前
です。その後も新しい道
の駅が次々に誕生し、
今や全国で1107か
所（2017年3月時
点）に達しています。私
が訪問したのは現在1
073か所ですから、
これからもその旅は続
きます」。その数たる
や！趣味の範疇を超える精神的な
活動は、もう「道の駅学問」の域と
いつても過言ではないだろう。そこで
松浦市にある2つの道の駅について
尋ねてみることに。

「全国を見て回った私の目から
も、松浦市の道の駅は2か所とも
極めて个性的で魅力があります。
『道の駅鷹ら島』の魅力の一つ目は
「鷹島肥前大橋」の美しい眺望です。
そして2つ目は定期的な（マガロの
解体」というイベント。全国にこれだ
け道の駅が増えていますので、他と

は違う「個性」が必要なのですが、
道の駅鷹ら島のマガロ解体ショーは、
それに値します。「月刊誌『ジュール』
の道の駅紹介記事や、雑誌「旅行読
売」に（全国のユニークな道の駅10
選」といったタイトルで紹介させてい
ただいたくらいです」。

吉田さんの道の駅考は2か所目
『道の駅松浦海のふるさと館』に続
く。「最大の魅力は新鮮な魚介類の
売り場。日本トップクラスの水揚げ
を誇るアジ・サバなど鮮度の高い魚
たちが所狭しと並んでいます。売り
場のディスプレイにもセンスが光り、
洗練されていると感じるのです。特
筆すべきは「手水庵」というトイレのユ
ニークさ！お茶会でも開けるような
純和風の建物で、外からはとてもト
イレとは思えません。もちろん松浦
市の魅力はこれに留まりませんが、
それでもまちをそのまま映し出す道
の駅は、松浦の看板。これからも訪
れる人々を魅了していくでしょう」。

PROFILE

福岡市に本拠を置く異業種交流会「FBK＝
福岡ビジネス協議会」事務局担当。69歳。

「全国の『道の駅』完全制覇の夢！」と名付け
たブログで全国の道の駅を紹介。



全国制覇の証！
各地方ごとに完走証明書が発行される。



7年半をかけて全国の道の駅を制覇し
た、たくさんのスタンプノート。

道の駅 松浦海のふるさと館

〒松浦市志佐町庄野1636-30
☎0120-062-004
<http://umihuru.com/>

吉田さんは自身のブログで「自慢のト
イレのある道の駅ランキング」という記
事を書いたことがあり、この手水庵を
全国5位以内で紹介したという。



道の駅 鷹ら島

〒松浦市鷹島町神崎1636
☎0955-48-3535
<http://www.takarajima-rs.com/>

月に2回の土曜日、本マガロの解体
ショーは数年来、休むことなく続いて
いる。

美と健康の力を内在 「松浦の幸」に実感。



中野 ちさとさん

松浦市観光大使

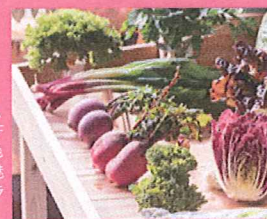
Chisato Nakano

魚が美味しい福岡のまちで、松浦市がポテンシャルを上げるには「現地力」です。この天神に負けないくらい、松浦に本物の味を、都会人好みの洒落た空間でいただけるカフェやダイニングがあれば！」と中野さん

PROFILE

株式会社「&C」代表取締役社長。
ビューティー・クリエイター

「4Hのみさんが手がけ、MATSUONOUEN+COF FEEで展開されている色とりどりの松浦野菜は魅力ですね。海の幸とのコラボが待ち遠しいです」



青島の「ハーブ」は美と健康の視点でも期待したい！

「松浦市の食は可能性を秘めています」。そう断言してくれたのは、美容家・中野ちさとさん（福岡市在住）だ。「ミスユニバース・ジャパン／福岡・長崎ビューティーキャンプ」講師・審査員としても活躍する中、2015年には自身も「ミセス日本グランプリ」のファイナリストに選ば



れ、美しい50代としてグランプリに輝いた経歴の持ち主である。そんな中野さんに、松浦市観光大使を務めていただいているのには理由がある。「松浦市の食の魅力を新しい視点で精査し、その広報活動に尽力いただきたい」という想いがあったからだ。

これまでに、松浦市で開催された祭りやイベントにも出演、また「美容家の立場から松浦の魅力を食を通して伝えたい」と、自身出版のレシピ本「コナツオイル&低糖質麗しの最強レシピ」では、松浦産の魚を取り入れて制作するなど、松浦の食のシーンと積極的に関わっている。

「食べることと美しさの関係はイコールです。新鮮な魚は松浦市の最強の宝。それゆえ漁師である男性の力強さは印象的ですが、そもそもその新鮮な魚を日々料理し、食している女性には潜在的な美の智慧があるはず。工夫すればその力は今の倍以上の効果をもたらすと思うのです」。刻々と進化する最先端の食事情に触れる毎日から、中野さんが今最も注目しているのが「コナツオイル」。例えばそのオイルで松浦産ふぐの唐揚げを作ってみる：美味しい上に健康的な、新しい松浦

産品の一例になりそうだという。ま

た醤油や砂糖だけでなく、薬味やドレッシングといった調味料の使い方。工夫次第で、美味しい松浦はいくらでもグレードアップを遂げる、とも。「ただ、大切なのはそれらを松浦で食べることに価値があります」。つまり、松浦には食のシーンを表現する「場づくり」が必要と説いているのだ。「本当に美味しいものをもう一度、松浦の地で深めて欲しい」と。素材と、商品と、場づくり。これらが単独ではなく、つながっている食の未来。松浦の明日を拓く鍵は、そこにありそうだ。

もう一組の松浦市観光大使

COOL M.B

松浦生まれの兄弟デュオ
大人ヴォイスで魅了！



兄「Daihey」と弟「Yas-O」による実力派R&Bユニット。福岡・久留米在住ながら、松浦生まれのDNAはその力強く、ダイナミックな歌声に残った。福岡県・九州を中心に全国各地で活動、音楽で松浦を支える観光大使なのだ。



【左】2015年10月1日、松浦市長より松浦市観光大使に任命。【右】2016年の「松浦水軍まつり」には、歴代の松浦よかとこ大使と一緒にステージに！

なぎなたガール

松浦党女子的 未来の故郷考。

松浦PRのために各地を訪れることが多いという内田さん。今日は来福し、松浦市出身の店主・田中義隆さんの店「でん」にて

でん

前福岡市中央区舞鶴1-9-13
☎092-733-8433



内田有華利さん

Yukari Uchida

第17代目 松浦よかとこ大使



PROFILE

市内「中興化成工業」に勤務、松浦市御厨町在住の25歳。

【松浦よかとこ大使HP】

内田さんの活動は下記「まつうら物産観光協会」
オフィシャルサイトをチェック！

<http://matsuura-guide.com/kanko/大使の部屋/>

地元の遊び場「大崎海岸」は松浦市
観光のメインコンテンツ「体験」のメッ
カにも！透明度の高い美しい海だ



2016年10月より「松浦よかとこ大使」として活躍中の内田さん。よかとこ大使とは、いわゆる「まちのアイコン」として松浦市の観光・物産情報を発信するプロモーション部隊のこと。内田さんは、17代とい



う伝統の重みを軽々と飛び越え、SNSやブログなど現代に合った自分なりの発信方法で、松浦市のアピールに尽力している。

その素顔は、ヤマトナデシコのようなやささと、凛とした武道ガールの

アクティブさを兼ね備えた「松浦党女子」！なぜなら、松浦高校時代は「なぎなた部」に所属、ハイスクール青春を全身あざだらけにして「なぎなた」に打ち込んでいたというのだ。そのフアイトの証は、なんと全

国大会5位という実績でも推し量られる。「実は松浦は長崎県でも「なぎなた」が盛んな地なのです。私も最初は「演舞の競技」、いわゆる型のスポーツだと思って気軽に始めたのですが、立派な格闘技で驚きました」と、笑う。そもそも、夏は「大崎海水浴場」を遊び場にするなど、大自然の中で育った御厨っ子、地元生まれの地元育ち。生粋の松浦党女子のイメージを難なく身にまとうのも無理はない。そんな内田さんに、地元で暮らすからこそ知る魅力や、思い描く故郷の未来像を尋ねてみた。

「松浦はどんな魚を食べてもいいし、自然の豊かさが自慢です。

とくに海は美しく、夏はいつもBBQを楽しんでいます。最近では、福岡の海を望む「土谷棚田」の景色の迫力に惹かれてるんです。海と緑が共存する風景は、季節ごとに訪れてみたいですね」。海だけでなく、

「農」の素晴らしさにも気づきはじめてるという。しかし、彼女が松浦を離れない理由は他にもあるようだ。「若い人は都会に出て行ってしまうことが多いのですが、実はUターンで帰ってくる人も多くいます。それに松浦の「大人」はとっても元気！そこを支えているのは圧倒的にお母さんたち！漁師のまちなので外からは亭主関白に見えるかもしれないけど、それに負けじとお母さん（奥さん）も強くて若々しいんですよ。料理上手なところも尊敬！その味が、私の元気の秘訣かもしれないですね。ずっとそのままいて欲しい」。松浦党女子の元気の源は、やはり「人」なのである。

【左】着物姿で大使活動！松浦市内のイベントや、テレビ、ラジオ出演も。【まつうら観光物産協会】のHP内で市内飲食店を紹介。【右】松浦市冠のラジオ番組（COMIX TEN「コミてん」FM RADIO）がスタート！福岡事務所スタッフ（近藤健・添嶋志保）と共に出演し、春のイベントをアピール。



【右】10代で、この凛とした気迫！松浦党女子のDNAが光る！



